

地域社会を対象とするプロジェクトワークの試み —留学生は地域の課題をどう解釈し解決策の提案を行ったか—

立命館大学 畠山理恵

本報告の概要

正規留学生(学部留学生)を対象とする日本語コースにおいて、地域社会を対象とするプロジェクトワークを行った。ゴールは、大学のある市のまちづくりについて、実現可能な提案をパンフレットの形にして発信することであった。ほとんどの学習者が市政上の課題を出発点に選択し、自らに引きつけて捉えなおし、情報収集・分析を経て最終的な発信に至っていた。

実施以前

背景

新キャンパス開設、移転 +
クラスの全員が①転入者の立場
②地域を知らない

履修生の背景
2回生以上の正規留学生
→ ③日本語力が十分ある
④大学生として少なくとも
1年以上の経験あり

プロジェクトワーク実施決定

地域社会を対象とするプロジェクトワークをやってみよう！

本実践でのプロジェクトワーク

(1) プロジェクトワークを「今・そこにある解決すべき問題や改善すべき状況を見出し、それを多面的に調べて正確に把握し、その結果に基づいて、何らかの解決策や改善案を具体的に提案するまでの一連の作業。」とする。

(2) 常に指標がある。

- 課題: 私はXXの立場・視点から今・そこにある〇〇という状況を何とかしたいと思う。
- ビジョン: その〇〇という状況が△△になったらいい。そのためにYYしたい。
- ゴール: 最終的に、そのビジョンを□□という目に見える形に・使えるものにする

実施

進めかたの概要

* __では、市役所職員、まちづくりについて学ぶ高校生より協力を得た。

コースについて知る、地域について知る、貢献の手がかりを探す

↓
指標を定める

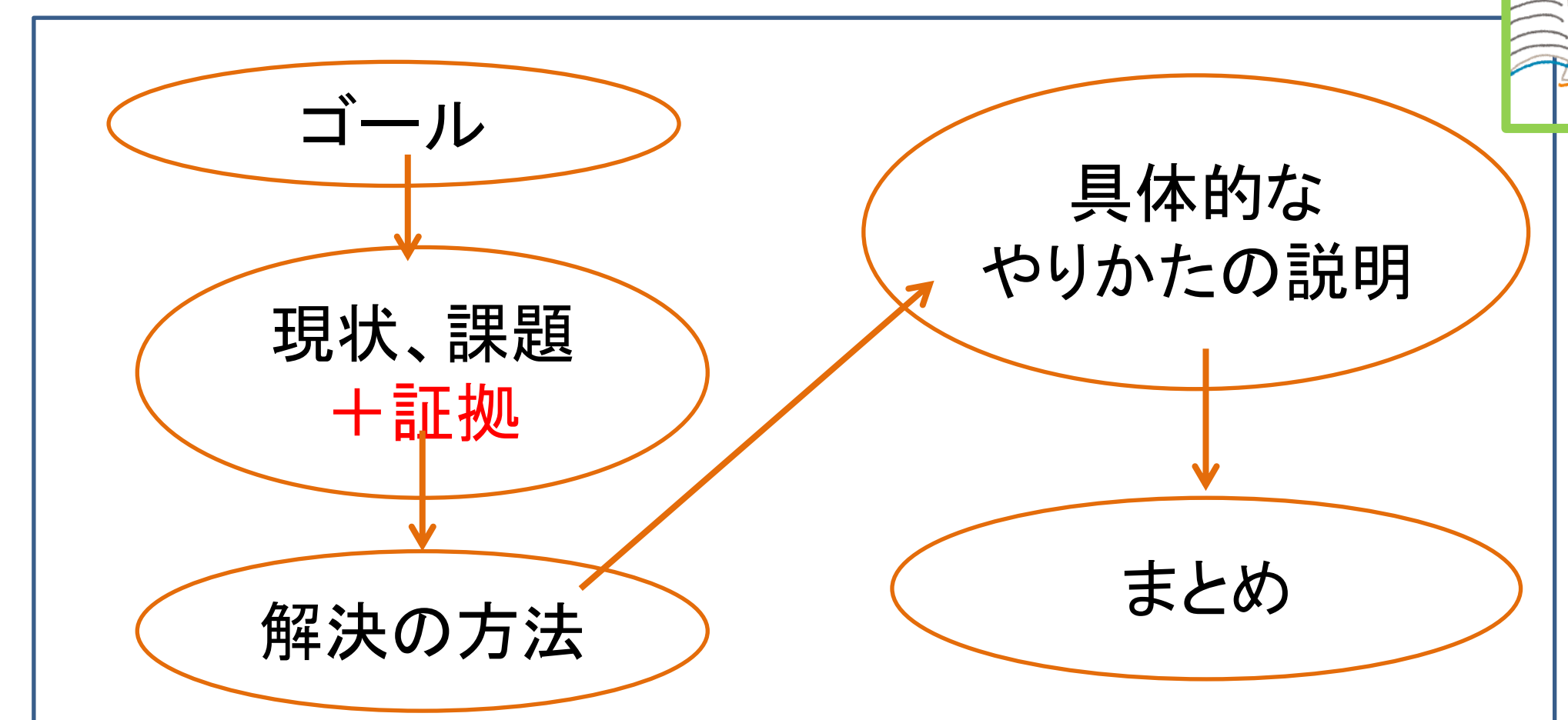
↓
指標にもとづいた情報収集、分析、検討をする

↓
提案を発信する

↓
コース、プロジェクトを振り返る

指標にもとづいた情報収集、分析、検討→発信

客観的な証拠をそろえ、見る・聞く人を説得する
夢物語でない、実現可能で具体的な提案をする
提案パンフレットの内容、展開



結果: 発信に至る過程 —学習者Jを例に—

出発点となる 状況や問題点を探す

- ・市では市民や市内の企業に対して就職や採用の支援制度を設けている。
- ・若い世代の人口が減っており、市では「若い世代に選ばれるまち」を重点プランのひとつにしている。

自分自身に引きつけて 考える

- ・自分は留学生で、4回生で、就職活動をしている。
- ・留学生も若い世代なので、卒業後も市に留まれば、若い世代の減少という状況を改善できるのではないか。
- ・就職活動では留学生ゆえの苦労がある。

指標の決定

- 課題:** 私は外国人留学生の就活生の立場から、茨木市の地元企業と留学生を結び付けることで、活気あふれるまちづくりに貢献したいと思う。
- ビジョン:** 海外の若い世代に選ばれるまちになったらいい。そのために地元企業と留学生の良い出会いを創出したい。
- ゴール:** 地元企業と留学生を結び付けるための提案パンフレットを作って、外国人留学生の就活生の立場から、実現可能な貢献を発信する。

情報収集、分析、検討

- ・市内の公的な関係機関を回り、直接企業へ取材に出向くべく紹介が受けられないかを模索する。
- ・結局紹介は受けられずに終わる。
- ・地域に留学生の存在を知ってもらい、留学生のイメージアップをすることも大切だと気づき、提案内容を修正。

発信

- ・共通の関心を持つ人で結成したチームで、口頭発表を行う。
- ・提案パンフレット第1版を作成し、構想を紙上で表現してみる。おたがいに見てコメントし合う。そのコメント、チームによる発表に対するコメント、気づきを生かし、最終版を作成する。発表する。



最終的な提案の内容

- ・将来的なゴールは、留学生を活用して市内の企業のグローバル化を促進し、市を活性化すること。
- ・そのために、留学生団体が主体的に地域向けの活動をし、地域に自分たちを知ってもらい、その上で時機を見て企業との交流フェアを開催する。